**2020年度（令和2年度） 播磨西高校支部報告（研究大会）**

１　日　時　　2020年（令和2年）10月30日（金曜日）13時05分～16時30分

２　場　所　　姫路キャスパホール

　　　　　　　〒670-0913　姫路市西駅前町88　　TEL ：079－284－5806

３　内　容　　第30回播磨西地区学校図書館研究大会

・研究発表

　　　　　　　・記念講演

４　講　師（提案者・助言者）

　　　　　　　研究発表：兵庫県立姫路南高等学校　　　教諭　兼松　由佳子

　　　　　　　指導助言：兵庫県教育委員会播磨西教育事務所

教育振興課指導主事兼社会教育主事　安藤　晃弘

記念講演講師：まんが家　エッセイスト　講演家　　森山　和泉

神戸新聞社文化部デスク　　　　　　網　　麻子

５　参加者数　播磨西高校支部27名

６　事例、感想

【事例】

　　研究発表

　　兵庫県立姫路南高等学校　　　　　　　　教諭　兼松　由佳子

「朝の一斉読書と学校図書館」

　朝のＳＨＲを始めるに当たり、1年の学年団の教員のお勧めの本の一部を紹介する「朝の一斉読書」を導入し、その後全学年で行うようになった。「朝の一斉読書」は「朝の読書」と異なり、教員が勧める文章を1枚のプリントにまとめたものを、ＳＨＲ時にクラス全員が一斉に読む。「朝の一斉読書」は、生徒は自分では選ばない様々な分野の文章に出会うことができるため、ものの見方や考え方が広がるとともに、学年団教員の考えていることや思いを伝えることもできる点が利点である。分野としては、小説・エッセイなどの文学作品だけでなく、ビジネス書、ハウツー本、雑誌・新聞記事なども取り上げた。コロナ流行による臨時休業中はGoogle Classroomを利用して配信した。

「朝の一斉読書」をＳＨＲから外へ広げていくため、図書館では紹介された本をわかりやすく配架し、蔵書に無いものは購入するように心掛けた。また、館内のカウンター前本棚に「朝の一斉読書」で紹介された本コーナーを設置し図書館入口横掲示板でも紹介した。

　高校に入学すると勉強や部活動でますます忙しくなり読書量が極端に減る傾向がある。そこで学校図書館では、学習・部活動・学校行事の隙間に「朝の一斉読書」で紹介された本を手に取りやすい環境づくりをすすめるとともに、学年の先生方には学校図書館にある本を生徒に紹介し、コメントを付けていただくなどの連携も進めていきたい。

(2)記念講演

講師：まんが家　エッセイスト　講演家　　森山　和泉

神戸新聞社文化部デスク　　　　　　網　　麻子

テーマ「発達障害を理解するために」

森山氏は、発達障害の認知について、母親の立場から講演をいただいた。発達障害についての理解は徐々に社会に広がってはいるが、正しい理解という面ではまだ不十分なところがある。そこで、発達障害を抱える子どもと子育てについての具体的な体験談を通じ、本人が自分を理解することと、周囲の人たちの理解がバランスよく合わさったときに、本人も周囲も心地良い社会が実現できるとの提案をいただいた。また、発達障害について情報等を、神戸新聞を通して多くの方々へ届けたいとの思いを伝えられた。

網氏は、森山氏の連載を１回目からの担当し、森山氏の本の編集や出版等にも携わっている。本を読んだ人が共感したり、関心を持ち、行動を変えたりするきっかけになり、発達障害のある人が自立して暮らせる社会を実現したいとの思いを、体験談等を通じて話していただいた。

(3)感想

・現代社会において学校図書館の役割はますます拡大しており、調べ学習から防災教育に至るまで様々な場面で活用できることを実感した。

・子どもの読書量が、年齢が上がるほど減って行くのが残念で、学校図書館の役割として読書のきっかけつくりが重要であると再認識した。

・発達障害を持つ子どもの保護者の立場からの意見は新鮮で、生徒に接するにあたっての注意点等参考になることが多かった。

・発達障害を持つ生徒の世界観が、周囲とは少し異なっていることがわかった。周囲から見ると理解できない行動でも、子どもの行動にはそれなりの理由があり、それを理解していくことが大切だと感じた。

**